

会議名	令和2年度第2回 木更津駐屯地に関する協議会区長部会		
開催日	令和2年8月23日(日)	場所	木更津市民会館中ホール
時間	午後1時30分～午後3時00分まで		
出席委員	山口委員(木更津市企画部長・部会長)、遠山委員(新宿区長)、小原委員(吾妻区長)、小沼委員(中里1丁目区長)、佐藤委員(江川副区長)、江尻委員(久津間区長)、星野委員(久津間住宅区長)本多委員(畔戸区長)		
議題	(1)陸上自衛隊V-22オスプレイの当面の運用について (2)基地周辺地区からの要望書に対する市の対応状況について		
その他	なし		
配付資料	01 会議次第 02 【説明資料1】陸上自衛隊V-22オスプレイの当面の運用について 03 【説明資料2】『陸上自衛隊V-22オスプレイの当面の運用について』の説明に係る確認事項等について		
概要	<p>議題(1) 陸上自衛隊V-22オスプレイの当面の運用について</p> <p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●深和北関東防衛局企画部長説明 説明資料1に基づいて説明 ●曾田木更津市企画課長説明 説明資料2に基づいて説明 <p>【主な質疑応答・意見等】</p> <p>遠山委員) 南西諸島のみならず、小笠原諸島は航空機の離着陸に適した滑走路を持った島々が少ないため、オスプレイの運用は重要な使命を持っていると思うが、この点について防衛省はどう考えているか。また、島嶼で急病人が出た場合にオスプレイの活用は重要になってくると思うが、その運用も含めて回答いただきたい。</p> <p>深和部長) オスプレイの有用性というのは、迅速に飛行することができて、滑走路がない場所でも離着陸が可能であるということである。小笠原村においては、長い滑走路を設置することについて、環境上の問題等あって進捗していないということは承知している。また、東京都においても、V-22オスプレイではないが、ティルト・ローター機を前提とした飛行場の建設について検討していると承知している。我が国の領海を守るという観点から見ると重要な航空機と考えており、現実に、小笠原村長から急患輸送に対する期待をいただいている。今後、防衛省として、V-22オスプレイを導入することは、東西方向に長い南西諸島の現状変更をしようとしている国に対して、きちんとした姿勢を示すためにも、重要な航空機ということとV-22オスプレイを水陸機動団とともに配備したところである。今後、東京都を含め新たな配備については、現時点で決まっているものは何もないが、この航空機の特성에応じて、具体的な検討をしていくのではないかと考えている。</p> <p>佐藤委員) 今後のオスプレイの配備計画が決まっていない中で、本当に緊急性があるのか。また、日本で初めてオスプレイを導入するわけなので、米国で訓練した人数や訓練期間、訓練の評価は誰が行うのか。まもなく木更津で新規要員の訓練が始まるということなので、そのようなところが不安である。米国で訓練された後に木更津に配属されるのであれば納得できるが、木更津で教育訓練を行うのは怖いと感じる。</p> <p>深和部長) オスプレイ17機を配備するために、平成27年度から平成30年度にかけてオスプレイ17機分の予算を計上している。このうち、平成27年度予算に5機分の予算を計上したが、その5機を用いて米国で訓練を実施</p>		

し、さらにそのうちの2機が木更津駐屯地に配備された状況である。我が国の安全保障環境は時々刻々と変化しており、リードタイムを持って予算計上しているところであるが、我々としても急ぎたいと考えている。緊急性があることから、既に予算の計上も終わっており、購入手続きも逐次進めているところである。

横川1佐) 陸自オスプレイの運用に係る操縦士の育成については、現在、木更津駐屯地に配備されている2機のオスプレイを運用できるだけの操縦士については、米国で育成をされていたところである。また、その評価については米国においてしっかりと評価を受けているので、安全かつ確実に運用できる態勢を確保している状況である。

山口部会長) 教育訓練で何名が米国で訓練を受けて、その期間はどの程度だったかお答えいただくことは可能か。

深和部長) 米国での訓練については、平成28年度から約20名の操縦士要員を米海兵隊のオスプレイ教育部隊に派遣して、座学・フライトシミュレーターを用いた訓練及び実機を用いた操縦訓練等を受けている。また、具体的に総飛行時間がどのくらいかについてはお伝えできないが、平成28年度から訓練を実施しているというところでご理解いただきたい。

佐藤委員) 木更津駐屯地にフライトシミュレーターはあるのか。

深和部長) まだ設置されていないが、今年度末の設置を目標に作業を進めている。それまでの間については、米国で訓練を受けてきたものが訓練飛行を行うことになる。

佐藤委員) 飛行訓練のルートだが、基地周辺の住民からすると、海上自衛隊側でのホバリング訓練は非常に音がうるさい。中の島公園での訓練はそこまでのさくなくなど、訓練する場所によって騒音が全然違う。出来れば海の方で訓練をしていただきたい。

深和部長) 可能な限り住宅地から離れた場所、できれば西側の方で訓練するよう現地部隊にも努めていただくよう話をしている。訓練内容や気象条件によっては東側で実施しなければならないこともあるが、そのようなご意見を踏まえると、可能な限り西側で実施することが必要であると考えます。

横川1佐) 可能な限り西側で訓練を実施するよう、現在も最大限配慮をしているところではあるが、気象条件等によっては西側での訓練が適切ではない場合があるため、その点については理解いただきたい。

山口部会長) 例えば、ホバリング訓練の実施場所についてはとても難しいと思うが、江川区寄りだと江川区の住民の方々への騒音の影響があるし、また、新宿区寄りだと新宿区や吾妻区の住民の方々への騒音の影響があるので、その辺りもご配慮いただきたい。

遠山委員) 騒音問題について勘違いされては困るのが、今日来ている記者の方もかなり若い人のため昔の木更津の状況は知らないと思うが、騒音が降って湧いたような捉え方をされてはとんでもない話である。木更津が一番うるさかったのは、F86が飛行していたときであって、あの時と比べてどうなのかという比較も必要であるし、掩体壕付近で実施していただければ、新宿区や吾妻区からもかなり距離が保てる。幸いなことに、新宿区と吾妻区には、吾妻公園があるので、それがかなりのクッションになっているものと思われる。そのようなことを踏まえて検討していただければと思う。

深和部長) 歴史的な経緯を踏まえて、ご理解いただいていることに感謝申し上げます。航空機騒音については、可能な限り低減する努力はしていく必要があります、運用上、低減できるものについては、可能な限り今後も努力していく。

小原委員) 想定される早朝と夜間の訓練とは、具体的に何時頃か。

深和部長) 木更津駐屯地における基本的な訓練の時間は、8時半から17時までとなっており、その上で、夜間・早朝というのは、それ以外ということになるが、緊急性を要する場合であるとか、隊員の訓練を行っておかないと有事の際に対応できないことになってしまう。夜間・早朝の訓練に伴う騒音

というのは、より周辺住民に影響を与えることから、十分に配慮しながらの夜間・早朝の訓練を行うことになる。

横川1佐) 騒音については、排除しきれない部分があるので、最大限、騒音に配慮した飛行を実施する。陸自オスプレイに限らず、現在、木更津駐屯地に配備されている航空機を運航する際についても騒音に配慮した飛行をしているのが現状である。飛行要領を改善して騒音を低減、あるいは、民家が密集しているところは避けて飛行するとか、騒音については、最大限配慮した飛行を既に実施しているということをご認識いただきたい。

小沼委員) 当地区の住民から、防音工事等を実施した場合の費用について助成していただければという声があるが、防音に関する助成についてはどう考えているのか。

深和部長) 航空機騒音に伴う防音の措置というのは、防衛省としては、住宅防音工事の助成という制度がある。他方で、中里1丁目区内で防音助成ができる範囲とできない範囲で線引きがされていることからのご質問と考えるが、この線の引き直しというのが、なかなか難しいところである。いただいたご意見については真摯に受け止めて何ができるのか検討しなくてはならないと考える。まずは現状を把握させていただき、他の形での対処というものも考えなければならない。制度上の問題もあって明確な回答はできないが、そういった声もあるということで受け止めさせていただく。

江尻委員) 3月に区長になったが、住民からの意見は特にはない。

星野委員) 住民から反対という強い意見はないが手を挙げて賛成でもない。オスプレイに対して過敏になりすぎていると思っている。時代とともに自衛隊が使用する機種も変わってきており、遠山委員の言う通り、昔から木更津市は陸・海・空あるため、騒音問題として岩根小学校はずいぶん前から二重窓になって騒音問題に対応している。昔から住んでいる人はしょうがないと思っている。しかし、ヘリコプター(バートル)がジェット戦闘機に変われば騒音が今までの比較にならないこともあると思うが、オスプレイは現在使用されているバートルと比べて大差ないという説明のため、そこまで気にしなくていいと思っている。例えば、戦闘ヘリ(コブラ)と比べて騒音が多くなるのかという説明をしていただけると納得できる。

深和部長) 騒音については、現在配備されているCH-47とほぼ同レベルと説明させていただいている。他方で、他の航空機と比べた客観的なデータも持ち合わせていないが、既存の資料で説明できる機会があれば説明していきたい。

外来機は、一回測っても音は風向きなどによって一般化するのが難しいため何とも言えないが、いただいた評価を今後の参考にさせていただきたい。

本多委員) 畔戸地区も防音助成の線引きがされている区域があり、先ほどの回答だと厳しいということだったが、防衛省に聞きたいのは木更津市に5年間暫定配備ということだが、その点についてはどうか。

深和部長) 畔戸地区もちょうど半分のところに騒音区域の線が入っており、苦労をかけていることは十分承知している。その上で5年間の暫定配備については、防衛省含め政府全体として、佐賀空港に配備するという事は揺るぎないものである。佐賀空港に配備するために進めなければいけない手続きとして、佐賀県と有明海漁協で結ばれている佐賀空港を自衛隊と共用しないという公害防止協定の見直しと、有明海漁協が地権者となっている佐賀空港西側の駐屯地建設予定地の取得が2つの課題である。

防衛省としても、有明海漁協、ここには15支所があるが、今年の6月3日までに15支所に説明を行い、了したところである。この説明が了したことを踏まえ、佐賀県とも協力しつつ、佐賀空港への正式な配備に向けて有明海漁協の皆さんにご理解・ご協力いただけるよう、防衛省として努

力しているところである。防衛省としては、今、話があったように5年以内を目標としてほしいという声に対して、申し上げた作業を続けている。ご理解をいただいた際には、木更津市への暫定配備を5年以内とするため、ありとあらゆる手段を用いて施設を完成させるべく作業を進めていく。明確な数字等は言えないが、理解を得られるようなことも進めているため、そこはご理解いただきたい。

遠山委員) 住宅地の防音区域の線引きの件だが、中里や久津間は昔と比べると開発(道路や住宅地の増加)が進んでおり、昔と違うところもあるため、騒音の問題が生じてくるのは当たり前である。その辺も踏まえて、防衛省には見直しをしていただきたい。強い要望である。

深和部長) まずは要望ということで承った。その上で、当時、騒音の区域の線が引かれた背景も踏まえると、見直すためには、当時設定した時以上の音が出ているかなど客観的な評価が必要になってくる。仮に線引きを見直す場合には当時と比べて音の大小が表れるかを様子見ながら行っていく必要があるため、木更津市と相談しながら調整をしていく。

佐藤委員) 佐賀空港の件だが、個人的には5年以内というのは難しいと考えている。木更津駐屯地以外の代替地はないのか。以前、17機を導入する際に、滑走路が1500メートル以上あるのはここだけという間違った情報が伝えられ、新聞にも出ていたが、県が調査したら1500メートル以上の滑走路を有しているところが他に14ヶ所あった。個人的にはここから佐賀へ飛んでいき、佐賀から尖閣諸島へ飛んで行くというのは緊急時に対応できるのかなと思う。九州方面にそういった基地はないのか。また、騒音の件だが、整備が終わったオスプレイが地上滑走した際の音はジェット機のような物凄い音である。ホバリングは今飛んでいるヘリコプターと全く同じのため、地上滑走する際には、海の方には申し訳ないが、近所の人から飛び出てくるほどの音のため、江川海岸のほうでやっていただきたい。

深和部長) ご指摘のとおり1500メートル以上の滑走路を有しているところは他にもある。他方で、木更津駐屯地に配備するにあたっては、1500メートル以上の滑走路を有していることと暫定配備ということのため、現状の施設でオスプレイを受け入れられる余裕がある場所が木更津駐屯地のみだった。

佐賀空港以外の場所がないのかという部分に関しては、運用のことを考えると佐賀空港が適地であると防衛省・自衛隊・政府として考えているため、これを追求することは揺るぎないものである。仮に5年が間に合わなかった場合の話は現時点では答えられない。佐賀空港への配備の努力をしていくため、ご理解いただきたい。また、地上滑走を行う際の音が大きいということについては、タクシングしているときの音だと思われるが、タクシングをする場所が格納庫を出てすぐの場所になってしまい、これだけは東側になってしまう。具体的な解決策というのは現時点では申し上げられないが、いただいた意見を十分踏まえた上で、部隊には運用してもらおう。

山口部会長) 陸上自衛隊オスプレイの暫定配備期間については、2月14日に5年以内を暫定配備の期間とする。という合意文書を市長と北関東防衛局長の間で取り交わしている。市の考え方としては、木更津市民の負担は5年以内の考え方である。佐賀空港の施設整備の状況はあるが、あくまでも市民の負担は5年以内である。

議題(2) 基地周辺地区からの要望書に対する市の対応状況について

【説明】

●曾田企画課長説明

陸上自衛隊木更津駐屯地周辺の自治会(新宿、吾妻、中里1丁目、中里2丁目、江川、久津間、久津間住宅、畔戸)及び市内漁業協同組合(木更津、中里、江川、久津間、金田、牛込)に対し、木更津駐屯地周辺地域等振興交付金を交付するため、9月補正に42,000千円提案した。交付金の使途としては、自治会の活動費や

	<p>漁業振興費に活用していただきたい。</p> <p>【その他】 無し</p>
--	--